

# 脳卒中診療部

脳卒中診療部が対象とする領域は、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血などの急性期脳卒中をはじめとした脳血管障害です。脳卒中の治療分野では、機械的血栓回収療法やtPAを用いた血栓溶解療法などの脳梗塞治療、機械的血栓回収療法や脳動脈瘤コイル塞栓術などの脳血管内手術、内視鏡的・開頭血腫除去術や開頭クリッピング術などの直達手術、さらにはリハビリテーションまで多岐にわたり学ぶことができます。脳卒中は多くの医師が直面する疾患です。そこで、初期研修医が最新の治療体系を学び、適切な診療を行える実力を習得することを目指します。

## 1 年次の研修目標

脳卒中救急患者に対する初期対応・診断・治療のアルゴリズムを習得し、各種画像診断法・頸動脈コー・頸頭蓋ドップラーの手技を獲得する。

### ● 緊急患者の救急医療

#### A. 救急脳卒中患者を的確に診断し、所見を把握できる

1. バイタルサインの確認
2. 病歴聴取
3. 緊急処置の判断
4. 重症患者の対応

#### B. 適切に緊急検査を実施し、結果を正しく解釈できる

1. 一般検査
2. 心電図
3. X線写真撮影
4. 超音波検査
5. CT・MRI撮影
6. 脳血管造影

#### C. 適切な緊急処置を実施できる

1. 気道確保（気管挿管、気管切開）
2. 人工呼吸
3. 直流除細動
4. 腰椎穿刺
5. 動脈穿刺

### ● 病棟での診療

#### A. SCU、脳卒中病棟での正しい診断ができる

##### 1. 臨床症状（診断基準、脳卒中スケール）

1. NIH脳卒中スケール
2. グラスゴー・コーマ・スケール
3. 日本脳卒中スケール

##### 2. 画像診断

1. CT検査を行い、診断できる
2. MRI撮像法を理解し、結果を診断できる
3. 血管造影を行い、結果を読影できる
4. SPECT、負荷SPECTの結果を理解できる
5. PET検査の意義を理解できる
6. 超音波検査の意義を理解し、結果を判定できる

#### B. 各病態と診断に応じた治療法を選択できる

1. 薬物療法の有効性と副作用
2. 手術療法の理解
  - (1) 頸動脈内膜剥離術
  - (2) バイパス手術
  - (3) 開頭手術
  - (4) 血管内治療

## ■ 2年次の研修目標

脳卒中救急患者に対する初期対応・診断・治療の方針を決定できる技量と知識を習得する。特に重症脳卒中患者管理、脳卒中急性期から慢性期に向けての患者管理法を習熟する。

### ● 病棟での患者管理と手技

#### A. 診療の基本、問題点を理解し、病態に応じた治療選択と実施ができる

1. 呼吸・循環の管理と対応
  2. 術前・術後の管理、指導
  3. 薬物療法の理解と実施
  4. 栄養管理（中心静脈栄養、経管栄養）
  5. 全身合併症への対策と管理

#### B. 脳卒中診療に必要な技術を習得する

1. 意識障害、痴呆症の評価と管理
2. 頭蓋内圧の管理と亢進症状への対策
3. 脳卒中急性期の治療と管理
4. 頸動脈エコー法、頸頭蓋ドップラー法
5. 脳機能モニタリング法（SEP, ABR, EEG, TCD, ICPなど）
6. 神経障害や全身合併症を有する慢性期患者の管理
7. リハビリテーション、回復期リハビリテーション